

福 議 委 号
平成30年11月 日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

総務教育常任委員会
委員長 川 村 明 雄

所管事務調査報告書の提出について

福島町議会定例会9月会議（平成30年9月19日）において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第147条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	3 第5次福島町総合計画等の変更について
調査期間	平成30年11月9日（1日間）
出席委員	委員長 川 村 明 雄 副委員長 木 村 隆 委員 佐 藤 孝 男 委員 平 野 隆 雄 委員 溝 部 幸 基
欠席委員	なし
委員外議員	なし
出席説明員	町 長 鳴 海 清 春 副 町 長 高 木 壽 教 育 長 前 田 勝 広 総 務 課 長 工 藤 泰 総務課参事 小 鹿 一 彦 企 画 課 長 住 吉 英 之 税 務 課 長 西 田 啓 晃 教 育 委 員 会 事 務 局 長 鎌 田 一 志
議会事務局職員	事務局長 阿 部 憲 一 次 長 鍋 谷 浩 行 主 査 谷 藤 悟

[委員会意見]

調査事件 3 第 5 次福島町総合計画等の変更について

(平成 30 年 11 月 9 日調査)

町が行った第 5 次福島町総合計画「前期実施計画」の平成 30 年度ローリング作業に伴い、実施計画に変更が生じたことから、変更内容等を調査したものであり、その調査結果を以下のとおり報告する。

【論点とした調査項目及び意見】

1. 事業費等に変更が生じた事業について

(1) 地域公共交通確保維持改善事業

当初予定していた自前による改善計画策定を業者へ委託するための計画変更とのことだが、職員数の減少により事務負担となることは一定の理解をする。しかし、平成 28 年 2 月の総合計画策定時に一定期間経過後は自前で策定するという判断をしており、計画の精度向上に努められたい。

なお、昨年度の降雪期における天候不順により利用者が減少しているとのことだが、高齢者にとっては、むしろそういう状況だからデマンドバスを必要とすると考えるので、PR の方法等を工夫しながら高齢者の利用促進を検討されたい。

利用者から他町と比べて利用料が高いとの意見も聞こえている、他町の料金決定に係る経緯等、関係業者等へ与える影響等を調査し、料金を下げた場合の路線バスの運行補助等の試算を行い比較検討されたい。

(2) 町民プール改修事業

計画を見直して展望計画に移行しているが、改修を予定している箇所（ろ過機、屋根塗装）については相当年数が経過している。メンテナンスにより良好な状態との説明だが、耐用年数等を考慮すると本当に大丈夫なのか疑問があり、計画の見直しについては慎重に検討されたい。

(3) パークゴルフ場備品購入事業

更新を計画している芝刈りトラクターは、今年故障し大規模な修理をしている。更新理由として老朽化による故障の増加となっているが、当該トラクターはこれまでメンテナンス等を一切行っていなかったとのことであり、更新の理由としては説得力がない。今後は定期的なメンテナンスを行うことで長く使用して行くべきであると思慮する。答弁では更新の先送りを考えているとのことであり、計画の見直しを取り下げる等の対応をすべきであったと

憂慮する。計画登載に当たっては変更協議を綿密に行うよう指摘する。

(4) 生活館等改修事業

建替えが予定されている生活館については、出来るだけ人の集まりやすい利用しやすい場所に建替えることを検討願いたい。

解体等の計画については、状態が非常に悪いものもあるので担当課においては町内生活館等の状態を逐次把握し対策を検討されたい。

2. 新規に登載となった事業について

(1) 地域間幹線系統松前木古内線バス車両更新事業

函館バスへの助成については、JR 松前線の廃止に伴うバス路線転換の際に対応した経緯があるが、四町のスタンスとしては、バス更新に係る補助は一度きりだったと認識している。今回の計画登載に当たって函館バス、近隣町と正式な協議はされていないとのことであり、地元の公共交通を維持する必要があるという町長の考えは理解するが、利用状況を勘案し、バスの小型化など必要最低限の方策へ整理する必要がある。今後の正式な協議においては、松前線廃止時の負担割合によることなく、当町のこれまでの利用実績等に基づく応分の負担という方向性を持って対応されたい。

(2) 耐震性貯水槽新設事業

貯水槽設置の必要性については理解するが、自然水利（海水）等が使用できることもあり、設置経費を抑えるよう検討されたい。